施策評価シート

施策等名称	多様な課題に対する取組の充実	体系番号	0201010105
		主管課	こども課

1　施策基本情報

現状と課題	多様な子ども達がいることを認識し、互いの違いを認め合い互いに理解を深めるため、性教育や人権教育の推進が必要です。また、高校中退者が直面する学び直しの機会等が不足しています。
めざす将来像（あるべき姿、基本的な考え方）	現代は社会の多様化から子どもを取り巻く様々な課題が生じています。自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進します。また、中学校卒業後の高校生世代については、その子らしさを大切にした課題への取組を進めます。

施策指標

	指標名称	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
①	性教育講座の参加者数の増	参加者（人）	57.00	100.00	100.00
②					
③					

施策の体系

施策の柱1

名称	自分と他者とを大切にする取組の推進	主管課	こども課
詳細	子どもは人と関わりながら成長していきます。人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立、協調性を養い、道徳性の芽生え等を培います。相手を認めるとともに自分を大切にする心を育みながら、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけます。それぞれの性別や年齢、国籍、信仰、考え方等を理解し、その人らしく生きることをお互いに認め合えることが必要です。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
1	性教育講座の参加者数の増	参加者（人）	57.00		100.00
2					
3					

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	性教育講座事業	実施
2	小中学校人権教育事業	実施
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱2

名称	多様な学びの場と機会の提供	主管課	こども課
詳細	義務教育終了後の子どもや、高校等中途退学者であっても学び直しができる機会や場の提供を検討します。また、社会へはばたいていけるような自立の機会や場の提供も合わせて検討します。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
1	検討				
2					
3					

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	検討	検討
2		
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱3

名称		主管課	
詳細			

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
1					
2					
3					

	柱を構成する主要事務事業	区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策等名称	多様な課題に対する取組の充実	体系番号	0201010105
		主管課	こども課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分		成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.			中間目標値	実績値 ／ 達成率(実績値÷目標値)					
施策		性教育講座の参加者数の増	57.00	54.00	52.00	－	―	－	－
1			100.00	54.00	52.00	－	―	－	－
変動要因等	2018年度	どんぐりプラン推進の中で事業内容を見直す予定である。そのため、講演会方式から変更する可能性がある。							
	2019年度	昨年のワークショップ形式から講演会方式に変更した。							
	2020年度	性教育に係る取組として講座の開催から、各種団体で開催されている講座を紹介する取組に変更したため。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							
柱1		性教育講座の参加者数の増	57.00	54.00	52.00	－	―	－	－
1			100.00	54.00	52.00	－	―	－	－
変動要因等	2018年度	どんぐりプラン推進の中で事業内容を見直す予定である。そのため、講演会方式から変更する可能性がある。							
	2019年度	昨年のワークショップ形式から講演会方式に変更した。							
	2020年度	性教育に係る取組として講座の開催から、各種団体で開催されている講座を紹介する取組に変更したため。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							

施策等名称	多様な課題に対する取組の充実	体系番号	0201010105
		主管課	こども課

3　評価・改革改善　　（単位：円）

項目		2018年（前年度比）		2019年（前年度比）		2020年（前年度比）		2021年（前年度比）		2022年（前年度比）		2018年～2023年（総括）	
評価 投資額（2018年～2023年(総括)については2023年の実績を記載）	事業費(円)	929,400		890,000	0.96	854,200	0.96	866,000	1.01	845,000	0.98	820,600	0.97
	うち一財(円)	929,400		890,000	0.96	854,200	0.96	866,000	1.01	845,000	0.98	820,600	0.97
	増減理由（一般財源前年度比±10%以上の場合に記載）												
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調	
総合評価	主な取組内容や成果	性教育講座については、ワークショップ形式の手法による講座を開催したところ。参加者から参考になったと好評であった。 人権教育は、いじめ防止の学習にもなっている。		性教育講座については、講演会方式により開催したが、参加要請による参加者のみであった。 人権教育は、いじめ防止の学習にもなっている。		道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育（心もよつばのクローバープラン）を基に人権教育を進めている。また、新型コロナウイルス感染症についての正しい知識の習得、差別・偏見を生まないための学習を実施。		道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育（心もよつばのクローバープラン）を基に人権教育を進めている。また、新型コロナウイルス感染症についての正しい知識の習得、差別・偏見を生まないための学習を実施。		（R4・総括評価共通）道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育（心もよつばのクローバープラン）を基に人権教育を進めている。		コロナ禍には、新型コロナウイルス感染症の正しい知識の習得、差別・偏見を生まないための学習を実施するなど、道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育（心もよつばのクローバープラン）を基に人権教育を進めることができた。	
	課題	性教育講座が人権を主とした研修となっているが、本事業の目的である「性被害防止」に重点を置いた内容にする必要がある。 人権教育の教材「あけぼの」使用を人権に関するものに限らず、学級活動・道徳・社会科・総合的な学習の時間等で扱うことが効果的か検討が必要。		性教育講座が動員による参加者しかいない。実施すべきかどか検討する必要がある。 人権教育の教材「あけぼの」使用を人権に関するものに限らず、学級活動・道徳・社会科・総合的な学習の時間等で扱うことが効果的か検討が必要。		新型コロナウイルス感染症に係るいじめや偏見の未然防止のために人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。		新型コロナウイルス感染症に係るいじめや偏見の未然防止のために人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。		（R4・総括評価共通）いじめや偏見の未然防止のために人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。		いじめや偏見の未然防止のためには、継続した取組が必要であり、人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。	
改革・改善	改革・改善内容	性教育講座について、参加を増やすために研修内容をどんぐりネットワーク茅野等から意見聴取する。 人権教育にふれることは、心の教育として必要である。いじめ防止の教育にもつながることから、学校での取り上げ方に工夫をしていく。		性教育講座について、他の団体等により開催されているため、今後はそういった取組を紹介する取組に変更する。 人権教育にふれることは、心の教育として必要である。いじめ防止の教育にもつながることから、学校での取り上げ方に工夫をしていく。		インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育も進めていく。		インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育も進めていく。		インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育も進めていく。		インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育も進めていく。	
	施策の柱等の重点化 重点化する施策の柱	1		1		1		1		1		1	
	重点事務事業	2		2		2		2		2		2	
	理由	人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。		人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。		人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。		人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。		人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。		人権教育を通じて、自分と異なる他者を認めるやさしさを育み、時代の変化に柔軟に対応し、困難を抱えても周囲と協力して乗り越えていける環境づくりを推進する必要があるため。	

作成担当者	宮下　孝	宮下　孝	宮下　孝	宮下　孝	小平　剛史	小平　剛史
最終評価責任者	有賀　淳一	有賀　淳一	有賀　淳一	五味　留美子	五味　正	五味　正
最終評価年月日	令和元年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月31日	2023年10月19日	2024年7月5日